

編集後記

当協会台北事務所がニールセン社に委託して今年の1月から2月にかけて台湾の20 - 80歳の男女約1,000人に対し電話及びインターネットを通じて実施しました「台湾における対日世論調査」において、2009年に調査した結果と比べ次のとおりとなりました。最も好きな国として日本と答えた方が41%（09年52%）、日本に親しみを感じると答えた方が約75%（09年62%）、現在の日台関係を良いと思うと答えた方が53%（09年28%）というように台湾の人々は、2009年に比べ日本に対し、最も好きな国として選択した方は減少しましたが第2位のアメリカ・中国の8%を圧倒しました。逆に日本に親しみを感じる及び現在の日台関係を良いと答えた方が大変多くなっていました。また、台湾側（台北駐日経済文化代表事務所）においてもニールセン社に委託して昨年5月中・下旬にかけて日本全国（東日本大震災の被災地区を除く）の20歳以上の男女を対象に行われた「台湾に関する意識調査」において、「あなたは台湾を身近に感じますか」という問いに約67%の方が身近に感じると答えており、「あなたは現在の日本と台湾の関係は良いと思いますか」という問いにはなんと約91%の方が良好であると思うと回答しております。

これらの調査結果から、現在の日本と台湾との関係が非常に良い状況にあると感じることが出来ます。特に日本人にとりましては、昨年3月の東日本大震災に対し、台湾よりの義捐金が約200億円にも上ったことについて日本人として台湾に感謝の気持ちを行動で伝えたいという若者が多く見られ、昨年当協会が後援しました「黒潮泳断チャレンジ2011」において日本の6名の若者が沖縄の与那国島から台湾の蘇澳まで泳ぎ、被災した東北3県の知事からの感謝のメッセージを台湾側に届けました。そして、7月号及び今月号にて紹介いたしますように、台湾の方々に直接、東日本大震災での温かい支援に対し感謝の気持ちを伝えたいと台湾を自転車で一周した若者の記事を掲載しておりますので、是非御一読頂ければと思います。残暑がまだまだ続きますが、読者の皆様暑さに負けずに頑張りましょう。

（総務部 藤本 徳司）